（別記様式５）（第37条関係）

動物実験室設置承認申請書（新規・変更）

□ 新規　□ 変更　　□ 予備審査　□ 本審査

学　　長　　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　管理者（部局長）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　所属・職名：

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名：

琉球大学動物実験規則第3７条第1項の規定に基づき、下記の実験室設置の承認について申請します。

申請年月日　　　年　　月　　日　　受付年月日　　　年　　月　　日　　　　　受付番号

|  |  |
| --- | --- |
| １．動物実験室の名称及び設置場所の概要 | □ 施設マネジメントシステムの施設配置図（様式2）及び棟別平面図（様式3）を用いた説明資料の添付 |
| ２．動物実験室の管理体制 | <動物実験室の管理責任者>（所属飼養保管施設の実験動物管理者、研究室・講座の長等の責任者など）所属　　　　　　　　　　職名　　　　　　　　　　氏名連絡先 |
| ３．申請内容の概要（変更申請の場合、変更内容の概要を記入すること。） |  |
| ４．使用動物（該当箇所の全てにチェックを入れること。） | 使用動物（種）：□ 実験用に生産された動物　□ 畜産・水産用に生産された動物　□ 野生動物□ 愛玩用に生産された動物　□ その他 （　　　　　　　　　　） |
| ５．実験用設備（該当箇所の全てにチェックを入れ、適宜情報を記入すること。） | □ 実験処置後の飼育の継続□ 存命大規模手術 □ クリーンベンチの使用 □ 安全キャビネットの使用□ 研究用微生物・病原体等接種実験□ P1A/ABSL1相当　□ P2A/ABSL2　□ P3A/ABSL3相当□ 野生鳥獣　□ 特定動物　□ 特定外来生物 □ 稀少野生動物□ 遺伝子組換え生物（ゲノム編集生物を含む）□ その他注意を要する実験 （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）主な実験処置の内容：室外との間の輸送、及び室内での保管の方法：複数の動物種を同一実験室で扱う場合の配慮： |
| ６. 衛生設備 | 洗浄設備、消毒・滅菌設備（消毒用噴霧器、オートクレーブなど）や、利用者の手洗い設備などについて、概要を記載すること。界面活性剤、エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液など、消毒・滅菌目的で用いる薬剤についても記載すること。また、室内・区域内の清掃道具についても記載すること。 |
| ７. 実験室、実験設備の清掃・洗浄・消毒・滅菌の方法 |  |
| ８. 廃棄物処理 | 死体等、糞尿等の汚物、感染性廃棄物・医療廃棄物等に分類される廃棄物の処理方法について記載すること。 |
| ９. 周辺の悪影響防止策 | 脱臭装置、防音装置、死体・汚物の冷蔵冷凍保管設備など、周辺の悪影響防止策について記載すること。 |
| １０. 逸出防止対策・逸出時対応策 | 出入口、前室、逸出防止板（例：ネズミ返し）、ネット、柵、窓、排水口、換気口（空調設備を含む）、開口部、ケージ・水槽からの逸出防止策、施錠などについて、概要を記載すること。添付書類で、対策箇所を図示すること。さらに、逸出が起こった場合の対応策を記載すること。 |
| １１. 設備構造の特記事項（該当箇所の全てにチェックを入れ、説明を記入すること。） | □ 研究用微生物・病原体等の使用□ 労働安全衛生上の注意を要する化学物質の実験での使用□ 特定動物　□ 特定外来生物チェックを入れた項目に関連する設備構造についての説明： |
| １２．学長承認欄 | 本審査への申請の承認：　　　　年　　月　　日　　本審査の承認：　　　　年　　月　　日　　 |
| □ 本申請を承認します。承認番号：第　　　　　　号琉　球　大　学　長　　　　　　　（公印省略） |

**添付資料**

□ 施設マネジメントシステムの施設配置図（様式2）及び棟別平面図（様式3）を用いた説明資料

□ ５から１１までの内容を説明するための、実験区域や室内の見取図及び資料

□ 作業手順書

□ 逸出防止・逸出時対応マニュアル

□ 緊急時対応マニュアル

□ 特定動物、特定外来生物、稀少野生動物の輸送や飼養等に関する許可証のコピー （該当する場合のみ）

□ その他の資料 （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）